第二千百五號　（毎曜日）　夕刊　いわき民報　昭和二十三年一月一日　（一）

いわき民報

平市田町四八番地　電話三八一番
編集兼発行人　千葉克巳
印刷人　千葉輝
日刊　但月曜を除く
定價一ヶ月廿円一部七十錢
発行所　いわき民報社

正月の配炭計畫成る

鐵道や電力用はいづれも増か

配炭公團常磐支團の正月の常磐石炭輸送計畫はこの程決った、蒼冬十二月に比して進駐軍關係は同量ながら鐵道用は四千ㇲ又一般産業用も四百七十ㇲの増加で、特に電力産業に對しては四百五十ㇲの増加となつている、其の他の産業部門では大差ない

◎進駐軍用五五、〇〇〇ㇲ　◎鐵道用五八、〇〇〇ㇲ　◎一般産業稼業用一四二、五〇〇ㇲ　合計は二六三、〇〇〇ㇲである、なほ電炭産業方面への發送計畫は次の通り電力二〇、五〇〇ㇲ、セメント六、五〇〇ㇲ、山炭二、四〇〇ㇲ、鉄鋼七、〇〇〇ㇲ、食料九、三〇〇ㇲ、硫安四、三〇〇ㇲ

港濱名小

船舶用飯米配給所

第二配給所が指定となる

食糧小名濱出張所第二配給所に對し海運局から船舶用飯米配給取扱い方を新春早々指定して來た、右は現在全港には何等の施設もない爲寄港船の配米配給は行れていない結果、今船舶は全港への寄港を喜ばぬ狀態で、これが急設は強く要望されているのに鑑み東北海運局で舊冬來研究を重ねていた結果が今回の指定となつたものであるが、これにより今後は寄港船舶の食糧問題も完全に解決されるわけで、壁上荷揚げ設備の完備と相俟つていよ〳〵商港としての内容を整へることゝなり大きな期待をかけられている

市郡選手權

卓球大會

十八日平第三校で

石城スポーツ連盟卓球部主催の第三回市、郡個人選手權大會は來る十八日午前八時から平第三小學校に開催する、男子部、女子部共に軟式トーナメント、參加者は市郡内在住者年齢はとはず會費は十円で申込みは五日まで

四倉方部の自治法講習

きよう四倉校で

四ッ倉、大野、大浦、草野、神谷の一町四ヶ村の町村會議員に對する地方自治法講習會は十日四倉小學校に開らかれたが、關係からは阿部地方課長が臨席協議した

市郡の供米見事完遂

◇きようの正午を期して◇

市郡下の供米は舊冬湯本町を始め十四ヶ町村が完納、新春に入つてから植田、泉、藤久、上遠野、豐間、江名、小名濱、内郷、神谷、大浦、大野並に平市も九日までに完納し合計二十五ヶ市町村となり殘る八ヶ町村も十日正午までに豫想通り完納、見事割當八千五百石を完遂した、昨年の一月二十四日に較べ二週間も早い完遂でこれは農民の同胞愛と指導者の努力によるものとされている、なおこの完納中にはモミズリの間に合はぬものもあるので、これらを完全にするには二、三日の間を要しようとある

湯本協議會

新制中學校問題

湯本町會協議會は十三日午後一時から役場會議室に開き新制中學校問題について協議

湯本町水道委員會

湯本町水道委員會は十四日午後一時から役場會議室で上水道問題に付いて協議

四倉勞働基準法講習會

四ッ倉漁業會では平勞働基準監督署花野署長河田監督官等を聘して十一日午前九時から事務所樓上に勞働基準法講習會を開催する

乾電池配給

米國製の優秀品

郡下各小學校へ

厚意による米國製乾電池が全國小學校に贈られることゝなり郡下にも千五百五十五箇が割當られたので、近く各校にそれぞれ配給されることになつた

將棋互樂會

正月例會

新樂會所で十一日

平將棋互樂會では正月例會を十一日午前八時から新樂荘で行う、A賞は四等まで、B賞は四等までと優勝者全部に賞品を贈る、なお會費は五十円でぐん賞持參のこと、なつている

勿來の火事

八日午前六時頃石城郡勿來町窪田線川愛治郎さん（三七）方から發火、隣の綴川初太郎さん（三八）方に延焼し住家一棟葺住家一棟を全焼、損害十五万円原因調査中

縣職組支部臨時大會

きよう正午地方事務所内で

縣職組石城支部臨時大會は十日正午から地方事務所で生活擁護要求貫徹並にこれが對策に就いての議題を中心に開催したが舊冬十二日縣職組から「最低賃金確立」のほか二項目に亘る要求を提出したが縣當局側では實質的返答をなさず、職組としてはこの際地方勞働委員會に提訴するに至つたのにもとづいてのものである

愛よ星と共に

高峰秀子の

只今エノケンのちやつきり金太

郷内第二イワキ

電級十二番

〈いよ〳〵十三日から〉公開迫る

◇上映中◇

磐城セメント

小火事件

放火の疑も濃厚

大浦村字仁井田磐城セメント株式會社演武場西側の日本間から五日午後七時頃出火、守衛鎌田忠氏が早期にこれを發見、消火にあたつたので大事世とあればスリたとは未

女子學院生徒募集

市内才槌小路私立女子學院は昭和二十一年度までは實教育制度に依る高等科女子卒業生を對象に當時の中等學校程度の教育と科學教育に重點を置いて來たが二十二年度には六、三、三制の實施から生徒を募集せず本年に入つたが三月の卒業を控へ今年は本月中旬から女生徒四十名を募る事になつた資格は新制中學校卒業生を對象に新制高等學校程度の教育を施すことに決定した

いわき寸言

▽市郡の供米、モミ搗り等は未完とはいへ一應完遂をいはれるのは出度き限り

▽少年の犯罪發增親の罪たることもちろんながら社會の罪たるをもわすれるべからず

▽ヤミ、横流し、無ケ丘言葉が平然と少年達の口にのぼる世とあればスリたとは未

有限會社　江名造船所
江名町電一六二・二三〇

又一商店
平市新川町

食糧營團植田出張所

委託加工致します
平製パン
平市愛宕町電二

孤兒物語

石狩の思ひ出

堤　信

私は故郷をいさぎよく捨てたしかしつきまとう幻は弟妹の此れからの生活が不安でならない。家を出た事が良心的であつたか單なる氣儘であつたか私は知らない。第三者が何んと批判しようとあの場合は此のような手段を選ぶ事が私の最善であると思つての行動であつたのだ。私の人生は再び大きく轉回したのである。昭和十四年三月新しい希望の船出に青森港の埠頭を立つ。眼りなく果しない大海の風は冷めたく肌を刺す。夕暮近く多くの夢を碎滅した青函連絡船松前丸は内地に暇しの別を告げて出帆した。見送る人見送られる人の波止場風景は私の心を惱ます。即ち見送る人とてなき孤獨感の私の胸の寂さを。私は泣きだしそうになる。靜かな津輕海峽を無事横斷し函館港に錨を下したのは夜も更け行く十時頃。船から眺望する濱の街は五色のネオン灯にかがやきながら異國情緒のふん圍氣が漂う素晴しき印象記憶の夜景を北海道の玄關口港函館の味を忘れることは出來ない。接續の夜行列車は十時間後には札幌のプラットホームにすべりこむ。冬の札幌は純白の雪に裝飾され繪のように美しい都會であつた。私はリュックサックとトランクを持つて案内者のない身を鐵道病院へと歩む。驛を下りて左側に五番館デパートがある。その横町を左に曲り一丁ぐらい行くと西創成川が流れている。水橋を渡つて右側に不幸病魔におそわれた北鐵道病院がある。正面バルコニーに鐵道族が掲げられている。食堂事務室は裏玄關から入るのですと守衛が教へてくれた。蒸氣の湯煙に蔽れた炊事場を通つて行くと事務室がある。そこにはかつての祖父の部下である私の尋ね人がいるのだ。四十の坂を越したと見える年齢で上品な容姿の持主である。職業柄白衣を着用している。私をせきまくるしい此の事務室に招じ入れ長途の疲労を慰めてくれた。私は家とのいきさつと來訪の趣旨をくわしく話した。しかし就職は小學校六年卒業だけでは世間の見る眼も低いし困難だから二ケ年辛棒して高等小學校に入ることが正しいのではないかと促された。又祖父の町長時代の思い出を懐かしそうに述懐され私の問題に觸いては不思議に思はれていた。苦學して勉强して見せると力んでみたものの内心秘かに恐れ目信もなかつた自分が救はれた様な氣もした。私は早速この事を祖父に連絡すべく秋田へ手紙を送つた。其の日は不意の私の來訪で取敢へず病院から一丁も離れていない自宅へ案内してくれた。自宅と云へども想像した程の家ではなかつた。私は家族に紹介された。親子八人家族に私が仲間入りして九人の大勢となつた。下級の官吏生活が決して楽くなものでないことはその主婦がたん息しながら語る子供の服裝にして見ても家庭道具の設備と云い家計の苦さが表はれている。又主人は若い頃東京の或る有名なホテルの料理人もして來た經歴を持つていたが、酒で失敗し今はこうして鐵道の不級官吏の生活におちぶれた此の間の事情も憶面もなく云うのであつた。私は此の家に來た事が氣毒に思へた。

彼は、或る雨の日、淑子を無言で抱いて求愛しようとしたとし端のいかない淑子は、この永の猛烈な求愛に氣が轉倒した。そして、何れかに姿を消した。

此の頃、淑子の母は沼津の別邸で寂しく死んだ。

永の家を飛び出した淑子に苦難の生活が始まつた。人の手から、人の手に自分の意志に生きることの出來ぬ彼女の肉體は轉々として、遂には、岡辰と云う興行師に金で賣られた、そして彼女は野卑な踊を仕込まれた。

彼等は死を考えていたのである。

二人の死を救つたのは、折からこの地に來ていた洋醫家田原守貞であつた。

老洋醫家の溫いひ護の下に幸福を約束されたが愛する新太郎の口から意外な慶賀が新られた。新太郎の母こそ自分の夫をすてゝ父の妾となつたお蝶の實子であると云うことであつた。

シゲ子は惱んだ。同時に新太郎は或る夜何れかに忽然と姿る消した。

この悲しい宿命を轉機としてーシゲ子の生活に一大轉換が來た。田原守貞の妻となつて、廿有餘年の歳月が流れた。

その守貞も今は亡い。シゲ子の心を慰めて呉れるのは、四、五年前から始めた孤兒爾「雀の宿」の經營と、今は美しい夢の想い出となつている過去の思い出の數々ーそして欲を云うなら、眼前に居る永が自分の仕事に今後助力して呉れるならーそれだけであるが。

保護者連の注意喚起

イモづる式にあがる少年犯罪

平署では最近平市内商店の少年スリ被害につきさぐつていたが、このほど手づるのように五名の少年をヤリ玉にあげた。

▽赤井村不動堂櫻岡某（一九）は昨年十月中旬頃より同村字常住新町伊藤止雄さんの店よりコマ一箇を盗んだのを手初めに同村吉田左司馬さん方の店からリンゴを二回にわたつて盗み、先月中ごろも同村羽賀吉吉さん方からもコマを父紙芝居屋からアメを

△赤井村炭鑛住宅某（一六）は去年十月中旬ごろ同村伊藤止雄さん方からコマ一箇、十一月十日赤井炭鑛日動詰所から鉛一貫五百匁を

▽赤井炭鑛住宅某一五は去年十月頃前記吉田左司馬さん方からスルメ、同村岩松秀之助さん方から生ガキを

▽赤井村炭鑛住宅某（一六）は昨年十一月十日ごろ前記炭鑛住宅某と赤井鑛日動詰所から鉛一貫五百匁を同十二月十日同鑛風呂場で紙

「芝居屋からアメをそれぐ盗んでいた」これらは何れも友人にさそわれての犯罪で興味からの出來心であるが家庭ではほとんど知らずにをり、子を持つ親に注意している。

眼鏡専門
各眼科醫指定
玉屋
平市二丁目ET910L

一映畫紹介一
こゝろ月の如く
13日一世界館
稲垣浩監督、杉山公平のカメラといふ東横映畫第一回作品
キャスト
佐藤永…上原謙
河野淑子…高夕起子
義子…宮城千賀子
全…河野義明…齋藤達雄
正子…蘭花久子
全…田原守貞…小杉勇
戸島…屋ひかる
蔵田…上代勇吉
下田…杉狂兒
梗概
佐藤水は山の宿で實に意外なラヂオ、ニュースを耳にした。
河野伯爵の長女淑子が生きている。彼は初め自分の耳を疑つた。然し間違ではない。ラヂオ、ニュースに結ばれて二十年消息を絶つていた淑子妹の義子、この三人は今、盗させぬ思い出を心に藏して對座している。
淑子の父河野伯爵は、彼女が十六歳の時、お蝶と呼ぶ妾を自家に引入れた。柔順な妹の義子は些細でもなかつたが勝氣な淑子は暗い家庭の空氣にたえられず家出した。
河野伯爵が自分の破廉恥な行爲を永に指適されて、大枚の金を恐喝されたのはそれから間もなくのことである。
淑子の眼には、四、五人の怪しげな居候と毎日を酒に暮す永の生活が不思議なものに映つた。
永は自分が、淑子の美しさに魅了されていくのを知つた。

優秀各種
ミシン
販賣・修理・部品
平二丁目シンガー
石川商會ミシン部

帽章。バツチ。メタル
御注文はメイ化粧店へ
アキバ徽章商會
東北代理店メイ化粧品店
平市田町六八

カメラの店
良心的營業で
平市平和通り
茂木カメラ店

機械工具
水道用具
高平商會
平市立町七

同じ境遇に、新太郎と云う男がある。
間もなく、淑子と新太郎は道樂兄弟と云うコンビで寄席の舞台に立たされた。
或る日、これを知つた永が淑子を救をうとやつて來て、そして、岡辰の後分達と激しい喧嘩を始めた。
苦しい日常にたえ兼ねていた二人は脱走した。
新太郎のヴァイオリンに合はせて踊る淑子、はかない街道の見世物に客の投げ錢は少なかつた。悲しい眼を上げる二人の眼に淺間山の噴煙が美しい。

門専受買
衣類。洋服。貴金屬
その他家具高級時計蓄音機書
平市大町通り
鈴木商會

衣類。洋服。貴金屬
高價買入
平市南町　中央會館